

New!

Tele Multi Channel Thermo-Hygrometer, **AD-5663 series.**

AND
エーアンド・デイ

温度や湿度の上限・下限アラームの設定が可能になりました。

ワイヤレス
マルチチャンネル温湿度計
AD-5663 シリーズ

AD-5663 シリーズは
AD-5661シリーズやAD-5662シリーズとは混信しません。



子機の増設ができます

親機1台に子機を
5台まで増設(接続)
することができます。

親機のチャンネル切替
ボタンを押すことで、5台
までの子機の測定値を
親機で切替表示する
ことができます。



※取り扱いや操作についての詳細については、必ず取扱説明書を良くお読みください。

A.	AD-5663 シリーズ の構成と仕様	
	AD-5663シリーズの構成	Page. 1
	AD-5663シリーズの仕様	Page. 2
B.	AD-5663 シリーズ の特長	Page. 3
C.	AD-5663 シリーズ の使い方と表示例	
	C-1. AD-5663の使い方と表示例（親機1台と子機1台の使用例）	Page. 4
	C-2. 子機を複数台使う場合（親機1台と子機5台の使用例）	Page. 6
	C-3. 子機を途中から追加（増設）する場合の通信（同期）手順	Page. 8
D.	電池の交換について	
	D-1. 親機の電池交換	Page. 9
	D-2. 子機の電池交換	Page.10
E.	親機と子機との通信が途切れた場合の接続の復帰 ～サーチ機能～	Page.11
F.	アラーム機能と温度や湿度の上限・下限アラームの設定	Page.12
G.	システムリセットの方法	Page.12
H.	こんなときには	Page.12

通信距離は最大**100m**
(見通し距離)



親機
(表示器・受信機)

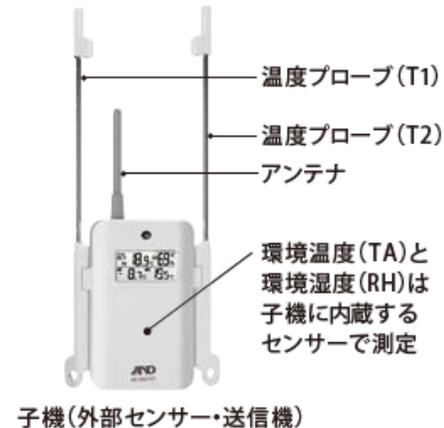
子機
(外部センサー・送信機)

AD-5663

標準価格 ¥15,000 (税抜)

AD-5663は、親機1台と子機(AD-5663-01)1台のセットです。

表示内容と名称



親機は子機の温度や湿度を受信して表示する表示器です。
親機の中には温度、湿度センサーは内蔵していません。

別売品 (オプション)



子機 (増設用)

AD-5663-01

標準価格 ¥8,000 (税抜)
JANコード 4981046 449410



子機用 温度プローブ (1本)

(ケーブル、端子付き)
AX-KO4449

標準価格 ¥1,500 (税抜)
JANコード 4981046 490351



親機用 ACアダプター

AX-TB250

標準価格 ¥2,000 (税抜)
JANコード 4981046 490702

仕様

		AD-5663	AD-5663-01
種別		親機	子機
測定範囲	温度(TA)	-----	0~50℃
	湿度(RH)	-----	20~90%RH
	温度プローブ(T1、T2)	-----	-40~70℃
測定精度	温度(TA)	-----	±1℃(10~39.9℃)、±2℃(0~9.9℃、40~50℃)
	湿度(RH)	-----	±5%RH(30~69%RH) ±10%RH(20~29%RH、70~90%RH)
	25℃時 温度プローブ(T1、T2)	-----	±1℃(10~39.9℃)、±2℃(-10~9.9℃、40~49.9℃) ±3℃(-40~-10℃、50~70℃)
表示項目	温度(TA)、湿度(RH)、温度プローブ(T1)、温度プローブ(T2)		
表示範囲	温度(TA) -20~70℃、温度プローブ(T1・T2) -40~70℃、湿度(RH) 5~99%RH		
最小表示	温度(TA) 0.1℃、温度プローブ(T1・T2) 0.1℃、湿度(RH) 1%RH		
表示更新間隔(親機)・測定間隔(子機)	約2分(FAST)、約4分(SLOW)		約20秒毎
上限/下限アラーム設定値範囲	温度(TA) 0~50℃ / 設定間隔 0.5℃ 温度プローブ(T1・T2) -40~70℃ / 設定間隔 0.5℃ 湿度(RH) 5~99%RH / 設定間隔 1%RH ブザー 音量70dB(距離10cm)、ブザーオフ可能 LEDランプ(赤色) 点灯オフ可能		-----
温度プローブケーブル長	----	約2.5m	
無線設備の種別 / 使用電波周波数	----	特定小電力機器 / 315MHz	
電波伝搬距離	----	最大100m(見通し距離)	
動作(使用)温湿度範囲	0~50℃、0~90%RH(ただし結露しないこと)		
電源	単3形アルカリ電池4本、ACアダプター(別売オプション)	単3形アルカリ電池2本	
電池寿命	約1年(アルカリ電池使用、アラーム未使用、SLOW設定時)	約1年(アルカリ電池使用)	
寸法、質量	120(W)×134(H)×30(D) アンテナ等突起部含まず 約325g(電池含む)	66(W)×112(H)×31(D) アンテナ等突起部含まず 約165g(電池含む、温度プローブ含まず)	
付属品	取扱説明書、単3形乾電池4本(モニタ用)、 子機(外部センサー)AD-5663-01(温度プローブ2本付)	取扱説明書、温度プローブ2本(T1・T2)、 単3形乾電池2本(モニタ用)、シース保護キャップ	
JANコード	4981046 449403	4981046 449410	
標準価格(税抜)	¥15,000(税抜)	¥8,000(税抜)	

●AD-5663シリーズは、従来のAD-5662シリーズやAD-5661シリーズとは混信しません

AD-5663シリーズは従来のAD-5662、AD-5661シリーズとは通信周波数が異なるので、同時に同じ場所で使っても混信しません。

●増設できます <マルチチャンネル>

親機1台に対して、最大5台までの子機(外部センサ)を増設して温度や湿度を測定することができます。(子機2台目からは別売の子機AD-5663-01)
 (別売)子機(外部センサー) AD-5663-01(標準価格(税抜) ¥8,000)

●温度や湿度の上限・下限アラーム値の設定ができます

赤色LEDランプとブザー音でアラームをお知らせします。

●最高値や最低値の自動メモリができます

温度や湿度の最高値・最低値をメモリ、確認することができます。

●温度や湿度のトレンドを矢印マーク()で表示します

温度や湿度が上昇しているのか、低下しているかの傾向の目安になります。

●親機は乾電池でもACアダプター(別売)でもご使用になれます

親機はACアダプターでも使えます。親機は乾電池とACアダプターを併用すれば停電時にも表示できます。

●子機にも温度や湿度、チャンネル番号を液晶に表示します

子機(外部センサー)にも液晶表示があるので、温度や湿度、チャンネル番号や電池消耗などを子機で確認できるようになりました。

●子機の温度プローブセンサーは取り外しができます

子機(外部センサー)の温度プローブセンサーは端子で脱着ができます。使用しない場合は外したり、破損した場合は別売品で交換できます。

●刺して測れる温度センサー部です。

プローブ形温度センサ部は防水仕様です。土中や水中の温度測定に便利です。(雰囲気(空気)温度も測定できます)

●設置(通信)距離は最大100m(見通し距離)

ワイヤレスで離れた場所の温度や湿度が測れます。

子機の増設ができます

親機1台に子機を
5台まで増設(接続)
することができます。

親機のチャンネル切替
ボタンを押すことで、5台
までの子機の測定値を
親機で切替表示する
ことができます。



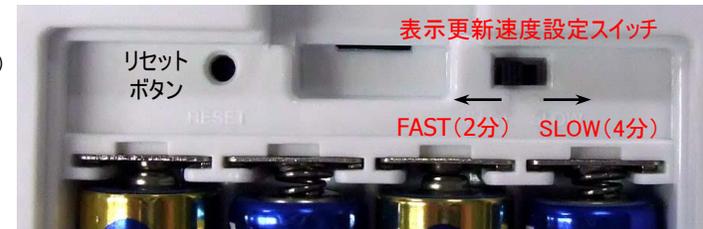
C-1 AD-5663 の使い方と表示例（親機1台と子機（外部センサー）1台の使用例）（取扱説明書 25～26ページ、8-3-1参照）

1. 親機と子機の電池ふたをはずします（子機の電池ふたは1本のネジを取り外して電池ふたを外します）

図1. 親機の電池ケース内

2. 親機の表示更新速度（子機からの信号受信間隔）の設定（必要ある場合のみ）

親機電池ケース上にある表示更新速度設定スイッチ（図1）を設定します。（取扱説明書15ページ参照）出荷時設定は2分（FAST）です。4分（SLOW）に設定すると親機の電池寿命が長くなります。



3. 近隣でA&Dのワイヤレス温湿度計が使われてないことを確認します

3-1. 親機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池4本）

表示部が点灯することを確認して、約10分間そのまま放置しておきます。

3-2. 親機の『チャンネルボタン』を押して子機の表示チャンネルを

「1→2→3→4→5→1へ戻る」と切り替えてみます。

・近隣でA&Dのワイヤレス温湿度計が使われてない場合は図2のように、温湿度表示がない『--』表示になります。

・また、図3のように温湿度表示がある場合は、そのチャンネルは近隣で使用されていますので、使用しないようにします。

3-3. 親機から一度、電池を4本全部を抜いて（1分以上放置して）ください。

4. 子機（外部センサー）のチャンネル番号を設定します（図4）

使用できるチャンネル番号に設定します（1から5まで）

（※3-2.で近隣で使用されている子機がある場合は、そのチャンネル番号には設定しないでください。）

5. 親機と子機1台との通信（同期）をおこないます

5-1. 親機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池4本）

（親機の表示が図2のように温湿度表示がない『--』表示になっていることを確認します。）

5-2. 子機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池2本）

5-3. 親機に子機の温度や湿度が受信、表示されることを確認します。

（次のページを参照）

6. 親機と子機の電池ふたを閉じて、親機の横に子機を置き1日程度、正常な通信を確認後に子機を測定場所に移動して設置してください。



子機のチャンネル番号

図2. 近隣の子機からの受信がない場合の表示（『--』表示）

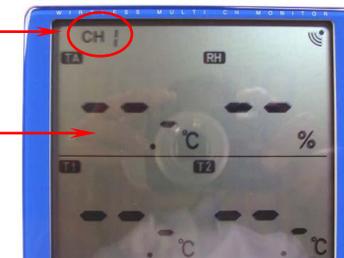


図3. 近隣の子機からの受信がある場合の表示例（この場合は、近隣でチャンネル2の子機が使用されています）



図4. 子機（外部センサー）のチャンネル番号の設定

C-1 AD-5663 の使い方と表示例 (親機1台と子機(外部センサー)1台の使用例)

親機 (AD-5663) の表示例



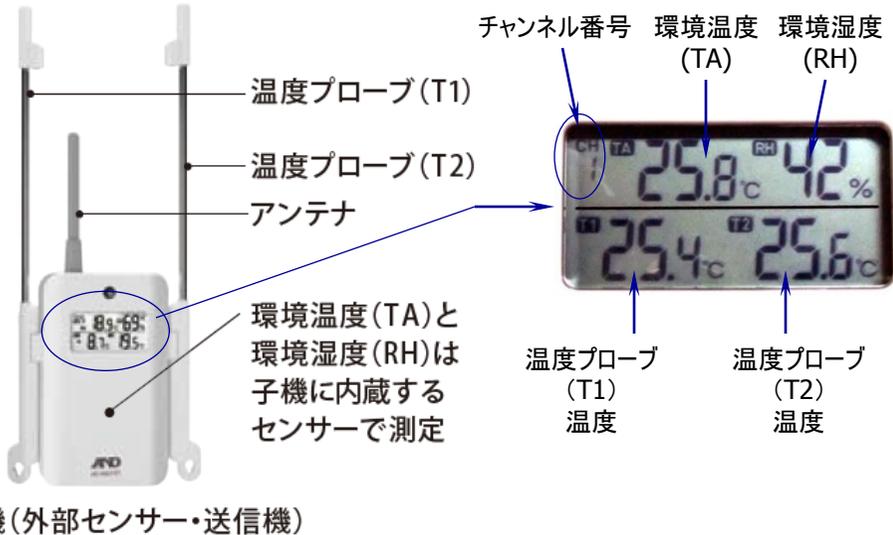
親機



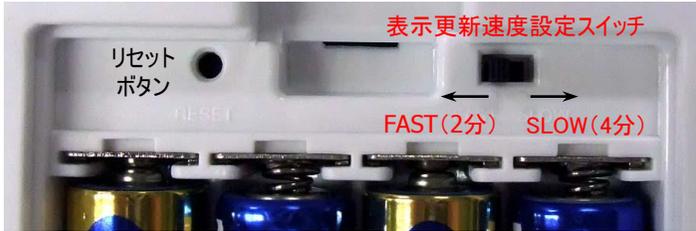
親機



子機 (AD-5663-01) の表示例



- 親機と子機 5台の電池ふたをはずします（子機の電池ふたは1本のネジを取り外して電池ふたを外します）
- 親機の表示更新速度（子機からの信号受信間隔）の設定（必要ある場合のみ）
親機電池ケース上にある表示更新速度設定スイッチ（[図1](#)）を設定します。（取扱説明書 15ページ参照）
出荷時設定は2分（FAST）です。4分（SLOW）に設定すると親機の電池寿命が長くなります。


 図1. 親機の電池ケース内

- 近隣でA&Dのワイヤレス温湿度計が使われてないことを確認します

3-1. 親機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池4本）

表示部が点灯することを確認して、約10分間そのまま放置しておきます。

3-2. 親機の『チャンネル ボタン』を押して子機の表示チャンネルを

「1→2→3→4→5→1へ戻る」と切り替えてみます。

- 近隣でA&Dのワイヤレス温湿度計が使われてない場合は[図2](#)のように、
温湿度表示がない『--』表示になります。
- また、[図3](#)のように温湿度表示がある場合は、そのチャンネルは近隣で使用
されていますので、使用しないようにします。

※以下ではチャンネル1～5が近隣で使用されていない（混信がない）こととします。

3-3. 親機から一度、電池を4本全部を抜いて（1分以上放置して）ください。

- 子機（外部センサー）のチャンネル番号を設定します（[図4](#)）

子機を5台並べて、チャンネル番号をそれぞれ1から5に設定します。

- 親機と子機1台との通信（同期）をおこないます（次のページも参照してください）

5-1. 親機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池4本）

（親機の表示が[図2](#)のように温湿度表示がない『--』表示になっていることを確認します。）

5-2. 子機に電池を入れます（単3形アルカリ乾電池2本）

- 本体の表示をチャンネル1にして、子機（チャンネル1）に電池を入れます。本体に表示されたことを確認します。
- 本体の表示をチャンネル2にして、子機（チャンネル2）に電池を入れます。本体に表示されたことを確認します。
- 本体の表示をチャンネル3にして、子機（チャンネル3）に電池を入れます。本体に表示されたことを確認します。
- 本体の表示をチャンネル4にして、子機（チャンネル4）に電池を入れます。本体に表示されたことを確認します。
- 本体の表示をチャンネル5にして、子機（チャンネル5）に電池を入れます。本体に表示されたことを確認します。

※ご注意 親機の電池を入れてから1分以内に、子機5台の電池を入れ終えてください。（落ちついて操作すれば十分に間に合います）

- 親機と子機 5台の電池ふたを閉じて、親機の横に子機を置き1日程度、正常な通信を確認後に子機を測定場所に移動して設置してください。


 子機の
チャンネル番号

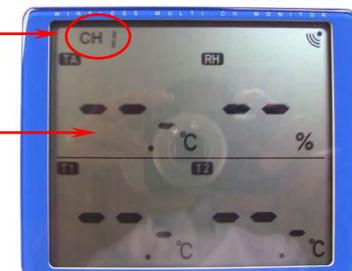

 図2. 近隣の
子機からの受信が
ない場合の表示
（『--』表示）


 図3. 近隣の
子機からの受信が
ある場合の表示例
（この場合は、近隣で
チャンネル2の子機が
使用されています）


 図4. 子機（外部センサー）の
チャンネル番号の設定

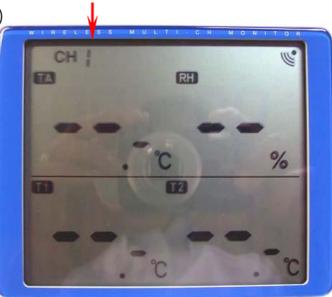
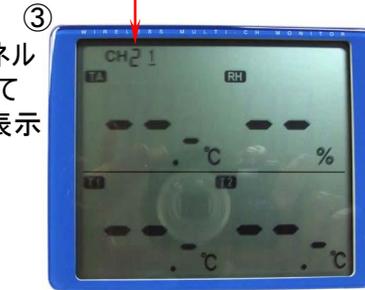
親機に電池を入れる

子機チャンネル1を表示（通信前）

1. 子機チャンネル1の温湿度を表示

子機チャンネル2を表示（通信前）

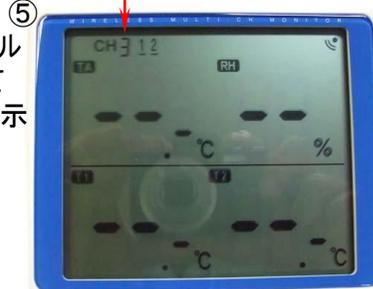
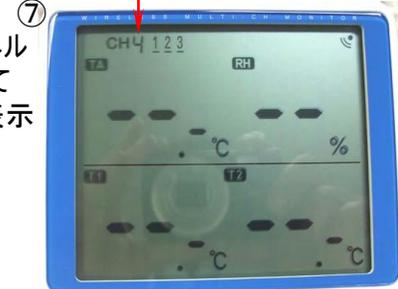
2. 子機チャンネル2の温湿度を表示

子機チャンネル1
に電池を入れる親機のチャンネル
ボタンを押して
チャンネル2を表示子機チャンネル2
に電池を入れる(参
照)

子機チャンネル3を表示（通信前）

3. 子機チャンネル3の温湿度を表示

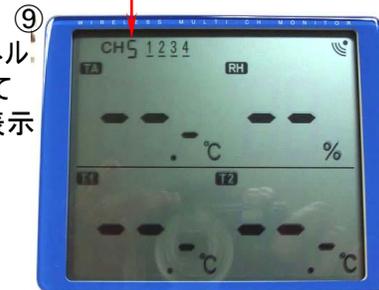
子機チャンネル4を表示（通信前）

親機のチャンネル
ボタンを押して
チャンネル3を表示子機チャンネル3
に電池を入れる親機のチャンネル
ボタンを押して
チャンネル4を表示

4. 子機チャンネル4の温湿度を表示

子機チャンネル5を表示（通信前）

5. 子機チャンネル5の温湿度を表示

子機チャンネル4
に電池を入れる親機のチャンネル
ボタンを押して
チャンネル5を表示子機チャンネル5
に電池を入れる

親機の
チャンネルボタン。
（表示する子機の
チャンネルを切り替えます）

使用例として、現在、親機1台に子機1台を通信(同期)して使用中で、さらに子機を追加して使用したい。
 このような場合は以下の手順で、子機を1台ずつ追加してください。

1. 現在、使用中の親機と子機の電池は入れたままで、設定も変えずに今までのままにしてください。
 追加する子機にはまだ電池を入れなくて下さい。
2. 図5のように親機の表示部上部のチャンネル表示(図5の表示例 で囲んだ箇所)で空いているチャンネルを確認してください。
 図5の例では、チャンネル1、2、5が使用中または近隣で使われていることを示し、チャンネル3、4が空きチャンネルです。
3. 途中から追加(増設)する子機の電池ふたを外して、子機のチャンネル設定スイッチ(図6)を、上記で確認した空きチャンネルに設定します。図6では子機のチャンネル番号を「4」に設定した場合です。

※使用しようとする子機が5台以内で、空きチャンネルがない場合は、取扱説明書25～26ページ 8-3-1、および26ページの「空きチャンネルがなかった場合、または無関係の子機の信号を表示させたくない場合」にしたがって親機と子機との通信(同期)の再設定を行ってください。

4. 親機のチャンネルボタン(図7)を押して、追加する子機のチャンネル番号にしてください。
5. 親機の「サーチボタン」(図7)を3秒以上押し続けてください。電波を探すサーチモードに入り、表示部右上の電波マーク(図5)が、下図のように順番に表示されたらボタンを離してください。



6. 親機が電波サーチモードに入ってから1分以内に、追加(増設)する子機に電池(単3形アルカリ乾電池4本)を入れます。
7. 親機に追加した子機の温度や湿度を受信して表示することを確認してください。
8. 追加する子機が複数台ある場合は、1～7. の操作を繰り返してください。
9. 追加した子機の電池ふたを閉じて、親機の横に追加した子機を置き1日程度、正常な通信を確認後に子機を測定場所に移動して設置してください。

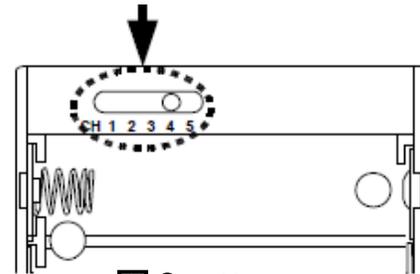
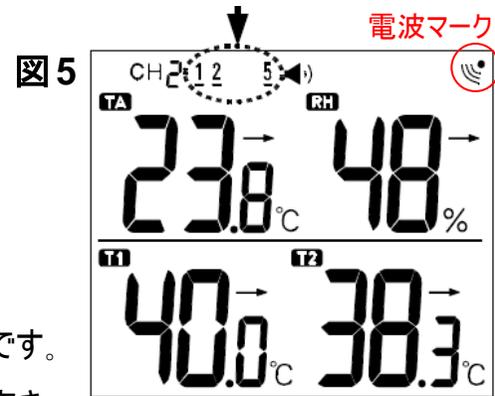


図6. 子機のチャンネル設定スイッチ



図7
 サーチボタン チャンネルボタン

D-1 親機の電池交換 (取扱説明書 28ページ、8-3-3参照)

1. 親機の表示部の上部に親機のローバッテリーマーク RX  が表示された場合は、速やかに新品電池に交換してください。親機の電池は図8のように、グループ1とグループ2に分けて、2本ずつ新しい電池と交換してください。

① **グループ1** の古い電池を2本抜き、新品のアルカリ乾電池2本を入れてください。

次に↓

② **グループ2** の古い電池を2本抜き、新品のアルカリ乾電池2本を入れてください。

※グループ1とグループ2に分けて、順番に2本ずつ電池を交換すると、親機の電源が切れることなく、リセット動作することがないため、親機と子機の通信(同期)を再設定する必要がなくなります。

※親機の電池を一度に同時に4本すべて外して、新品の電池に交換すると、親機はリセット(初期化)と同じ動作をします。この場合は、次の2項のように最初からの手順で親機と子機の通信(同期)を再設定しなければなりません。

※ご注意

- 1) 電池は、グループ1(2本) → グループ2(2本)の順ですべての4本の電池を新品に交換してください。グループ1のみ、グループ2のみ電池交換を行うと、子機の信号を受信できなかったり、電池の消耗が早まったり、電池の液漏れの原因になります。
- 2) 電池は必ずアルカリ乾電池を使用してください。マンガン乾電池を使用した場合、子機の信号を受信できなかったり、電池の消耗が早まったり、電池の液漏れの恐れがあります。

2. 親機の表示が消えて完全にすべての電池が消耗してしまった場合は、

C-1. AD-5663 の使い方と表示例(親機1台と子機(外部センサー)1台の使用例) または、

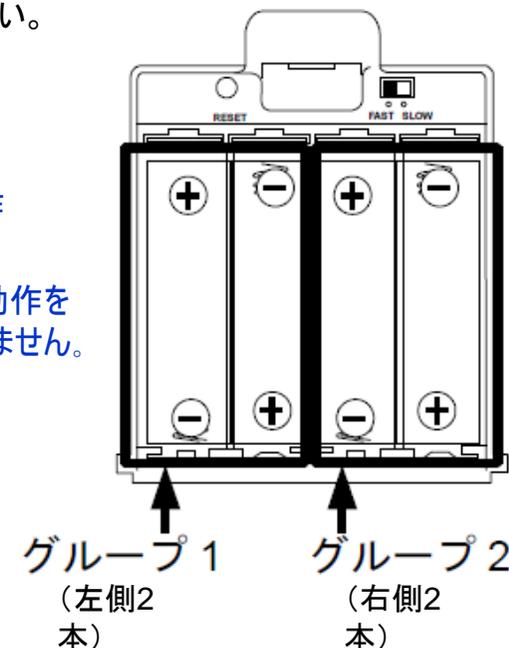
C-2. 子機を複数台使う(親機1台と子機(外部センサー)5台の使用例) にしたがって親機と子機の通信(同期)の再設定を行ってください。

※お奨め

親機は、アルカリ乾電池を使用しながら、別売品のACアダプターと併用することをお奨めします。

通常はACアダプターで動作し、万一の停電時には乾電池で動作します。例えば定期的に1年に1回、ACアダプターを接続したままで新品のアルカリ乾電池に交換すれば、親機の電源が切れることはありません。

図8.親機の電池ケース



親機の表示部右上部に TX  の表示 (図9、取扱説明書6ページ参照) が出た場合、表示されているチャンネルの子機の電池が消耗していることを示しています。

1. 電池が消耗している子機を設置場所から、親機の近くに持ってきて、子機の電池ふたを外して電池を2本を取り外します。
2. 親機の表示チャンネルを、親機のチャンネルボタン (図7) を押して、電池の消耗している子機のチャンネル番号に合わせます。
3. 親機のサーチボタン (図7) を3秒以上押し続けてください。
電波を探すサーチモードに入り、表示部右上の電波マーク (図7) が下のように順番に表示されたらボタンを離してください。



4. 親機が電波サーチモードに入ってから1分以内に、電池の消耗した子機に新品の電池 (単3形アルカリ乾電池4本) を入れます。
5. 親機に、新しい電池に交換した子機の温度や湿度を受信して表示することを確認してください。
6. 新しい電池に交換した子機の電池ふたを閉じて、親機の横に新しい電池に交換した子機を置き1日程度、正常な通信を確認後に子機を測定場所に移動して設置してください。

注意: 上記の手順は、親機に子機のローバッテリー情報が表示されたときのみに有効です。子機の表示部左側に  の表示が出て、その情報が親機で受信されたときに有効になります。

また、親機に子機のローバッテリー表示が出ていないにもかかわらず、電池を交換した場合は、親機では受信できなくなります。そのような場合には、「8-3-1. 基本的な同期手順」に従い、親機と子機との通信の再設定をしてください。

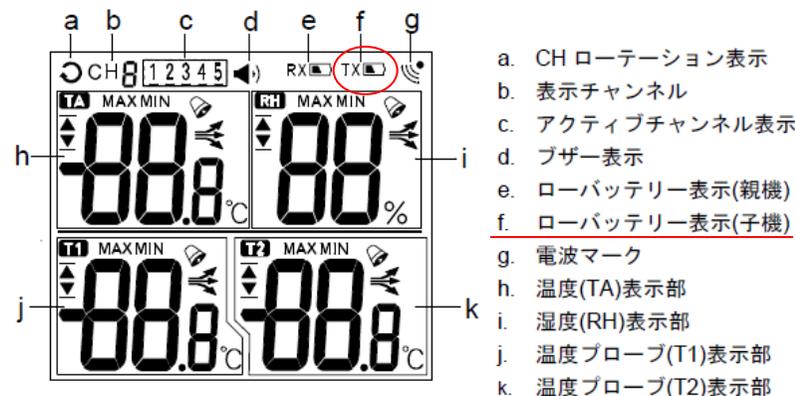


図9. 親機の液晶表示内容

親機と子機との通信(同期)が途切れた場合、通信を復帰(回復)させ接続させるのが、サーチ機能です。(取扱説明書14ページ8-1-3参照)

- 使用中に親機と子機の通信(同期)がはずれ、親機に子機の測定値が表示されない場合は、サーチボタンを3秒以上押し続けてください。親機の表示部右上の電波マークが以下のように順番に点灯し、電波サーチモードに入ります。



電波サーチモードは3分間継続し、この間に子機からの信号を受信して通信(同期)を回復します。

電波サーチモード中に、もう一度 サーチボタン を押すと、強制的に電波サーチモードを終了して通常表示に戻ります。

- 子機からの信号を受信できない場合、親機の表示は「--」表示になり、[図10](#)のように右上の電波マークが表示されなくなります。子機の電池が消耗している場合は、Page.10の「D-1.子機の電池交換」をしてください。

- 子機からの信号を受信できなくなった場合は、以下のことを確認してください。

- ・親機と子機の電池残量は十分あるか？
- ・親機と子機の間電波を遮断するようなものがないか？
- ・親機と子機のアンテナを上向きにして設置されているか？
- ・本製品 または 近い周波数帯(315MHz帯)の電波を発する機器が近隣で使用されていないか？
(混信により正常な通信ができない場合があります。)

● ご注意

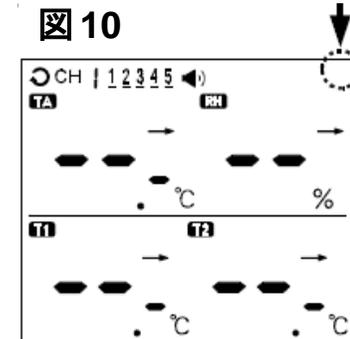
- ・サーチボタン を押して電波サーチモードに入ったときに、**電波をサーチする(探す)のは、サーチボタン を押したときに表示していたチャンネルのみです。**また、過去に受信(表示)されていた子機の電波のみを受信します。

子機の電池を交換したり、リセットした場合、また新たな子機からの信号は受信できません。このような場合は、取扱説明書「8-3.親機と子機の同期手順」に従い、親機と子機との通信(同期)の再設定をしてください。

- ・サーチボタン を押して **電波サーチモードに入ったときには、親機のチャンネルの切り替え表示はできません。**チャンネル表示を切替えたい場合は、サーチモードが終わるまで待つか、サーチモードを強制的に終了させてください。



図10



F アラーム機能と温度や湿度の上限・下限アラームの設定

取扱説明書の15～22ページをご参照ください。

G システムリセットの方法

万が一、正しく動作しなくなった場合は、システムリセットをすることができます。システムリセットとは初期化をすることで、電池を入れなおした場合もシステムリセットをおこなった場合と同じ動作をします。

- ・親機のシステムリセットの方法は、取扱説明書の23ページ「8-1-7.システムリセットの方法」をご参照ください。
- ・子機のシステムリセットの方法は、取扱説明書の25ページ「8-2-5.システムリセットの方法」をご参照ください。

H こんなときには

何も表示されない。	電池の残量を確認してください。
表示が薄くなり、見にくい。	電池の残量を確認してください。また、低温下では、LCD表示が薄くなりますが、故障ではありません。
親機の表示値と子機の表示値が違う。	子機は約 20 秒毎に表示値が更新されますが、親機は表示更新速度設定の設定(約 2 分/約 4 分毎)により表示値が更新されるため、親機と子機の表示値が一致しない場合があります。
親機の表示値がパー表示になっている。	子機からの信号が受信されていません。以下の確認をし、親機と子機との通信の再設定をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・子機の電池の残量はありますか？ ・親機と子機間の距離が 100m 以内ですか？ ・親機と子機間に電波を遮断するようなものはありませんか？ 建物や車、壁、植物などにより電波が遮断されることがあります。 ・親機と子機のアンテナが上向きに設置されていますか？ アンテナを横向きに設置すると、通信距離が短くなります。 ・本製品や近い周波数帯の電波を発する機器が近隣で使われていませんか？ 使われていると、正常な通信ができない場合があります。
ボタンを押しても反応しない。	内部回路に異常があります。電池収納部の [RESET] ボタンを押してリセットしてください。
通信距離が短い	親機と子機間に障害物があったり、雨や雪、霧などの悪天候の場合、通信距離は短くなります。

エラー表示

親機、子機共通

1. 温度(TA)のエラー表示

- H_i** 測定範囲外(70.0℃より高い場合)
- Lo** 測定範囲外(-20.0℃より低い場合)
- Err** 温度(TA)センサに異常が発生している場合

2. 湿度(RH)のエラー表示

- H_i** 測定範囲外(99%RHより高い場合)
- Lo** 測定範囲外(5%RHより低い場合)
- Er** 湿度(RH)センサに異常が発生している場合

3. 温度プローブ(T1/T2)のエラー表示

- H_i** 測定範囲外(70.0℃より高い場合)
- Lo** 測定範囲外(-40.0℃より低い場合)
- OPn** 温度プローブが未接続または断線している場合
- SHt** 温度プローブが破損している場合